

社協だより

第97号

平成28年1月15日発行



社会福祉法人
七ヶ浜町社会福祉協議会
(ボランティアセンター)

〒985-0821

宮城県宮城郡七ヶ浜町汐見台7丁目8-153
TEL(022)349-7781 FAX(022)349-7782
<http://svc.miyagi.jp/dvc/index.php?gid=10209>
E-mail:sitigahamasyakyo@ia8.itkeeper.ne.jp

七ヶ浜町らしい住民の支え合い ～介護保険の未来への一歩～

研修会



元気な
高齢者の多い
明るい町を目指して!!

もくじ

- 七ヶ浜らしい住民の支え合い
- 会長あいさつ
- 厚生労働大臣表彰
- 第61回宮城県社会福祉大会
- 溫かい善意に感謝いたします
- 虹色の涙 特別編
- 住民の福祉意識調査へのご協力
ありがとうございました
- 七ヶ浜町生活支援体制整備事業
がはじまりました
- あさひ園まつり報告
- 向洋中学校職場体験
- きずな工房からのお知らせ
- ボランティアセンターからの
お知らせ
- ※男の料理教室
- ※「ボランティアの樹」へ看板
- 見守りってどんなこと?

今から10年後、団塊の世代の方々が75歳以上となる2025年へ向けて、町民一丸となって介護予防などに積極的に取り組み、要介護状態に陥らず、住み慣れた環境でいつまでも元気に過ごせる高齢者を増やし、元気な高齢者が日常的な軽易なお世話をできるような社会へ向けて、未来への一歩を踏み出します。

関連記事 5ページの「七ヶ浜町生活支援体制整備事業が始まりました。」をご覧ください。

年頭のごあいさつ



七ヶ浜町社会福祉協議会
会長 塩野 信臣



町民の皆様には申年の新年をめでたくお迎えの事と謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

また当会で取り組んでいます地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、福祉教育、ボランティア事業等の運営に対し、日頃よりご理解とご協力を頂いております事、深く感謝を申し上げます。

間もなく東日本大震災から五年目を迎えるとしております。高台移転も進み、災害公営住宅も順次完成し、仮設から新しい所へ移転された方々も多くおられます。しかしながら、未だ不自由な生活を余儀なくされている方々もおられます。心身への負担を考えますと大変憂慮されることです。

さて今日、孤独死や引きこもりなどの社会的孤立や生活困窮の問題が深刻化し、また各地で災害による被害が生じる中、誰もが安心して暮らす事が出来る「福祉のまちづくり」を使命とする社会福祉協議会への期待はますます大きくなっています。

七ヶ浜町社会福祉協議会といたしましても日頃からの隣近所のつながりや交流を深めるために、見守り活動やサロン活動、地域支え合い活動等を関係機関や団体、行政、地域住民の皆さんと共に取り組みを進めているところです。

本年も厳しい社会情勢、経済状況が続くことと想えます。社会福祉協議会の果たす役割を役職員一同が再確認し、地域福祉サービスの構築に頑張って参る所存です。

今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、ご健康とご多幸を心からご祈念いたしまして年頭のごあいさつといたします。

《平成27年度ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰》



平成27年12月22日（火） 場所：宮城県庁

【厚生労働大臣表彰】

七ヶ浜町ボランティア友の会 様



長年のボランティア活動の功績が認められ、表彰を受けられました。

温かい善意に感謝いたします

次の方々からご寄付をいただきました。

（平成27年9月25日～12月15日）

○阿部和夫様（境山） 50,000円

○匿名様（東京都） 15,000円

《第61回宮城県社会福祉大会》

平成27年11月5日（木） 場所：仙台サンプラザ

長年地域福祉にご尽力いただきました皆様方に、表彰状や感謝状が手渡されました。



第六十一回
宮城県社会福祉
大会

【宮城県社会福祉 協議会会長表彰】

= 感謝状 =

鎌田 節夫 様
(花渕浜)

おめでとうございます。



金華山

「虹色の連」特別編 稲妻克夫さん（吉田浜）

にじいろ

さざなみ

今回は、吉田浜区長の稻妻克夫さん・京子さんご夫妻からお話を伺いました。再建されたご自宅からは素晴らしい海の眺めが一望できました。

取材の日は天気も良く、澄んだ秋空の下に、金華山や網地島を望むことができました。

2011年3月11日、克夫さんは仙台市の職場で仕事をしていました。ビルの6階は急に大きな揺れに襲われ、机にしがみついたものの、机ごと大きく左右にひきずられながら、揺れがおさまるのを待ちました。

普段通勤に使っていた電車はストップし、仙台市から七ヶ浜町まで歩いて帰ることになりました。産業道路を七北田川まできたところで、道路は津波で寸断されており、高砂から中野栄、八幡を通って東北学院大学の前を通り、下馬から多賀城トンネルを抜けて貞山橋を渡りました。

5時間半ほどかけて、ようやく七ヶ浜に到着。自宅は津波でだめだろうと思い、直接吉田浜の公民分館へ向かいました。そこで、克夫さんのお母さんと奥さん、息子さんと会うことができ、ほっと胸をなで下ろしました。一方、地震のあつた14時46分、克夫さんのお母さんと奥さんは自宅にいました。揺れが収まり、幸いにも家屋の被害が無かつたため、逃げるのを

ためらうお母さんをよそに、避難をする準備をはじめました。

奥さんは実家が花渕浜のヨットハーバーの近くで、チリ地震の際に、津波の被害を受けた経験があつたので、「とにかく逃げなくてはいけない」という意思でした。

外は雪が降る寒い日。お母さんも杖をついて、長い距離は歩けないので、自宅近くの遠藤医院へひとまず避難することにしました。医院の屋上から、轟音とともに自宅の庭に黒く大きな渦が巻いているのが見えました。

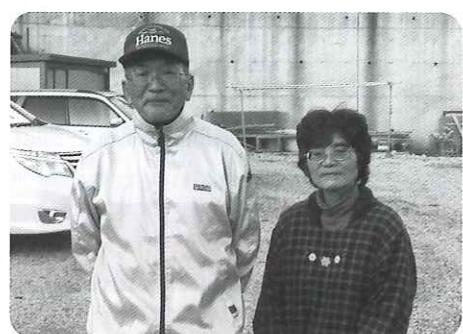
津波がひき、巡回していた分団長から、「自宅は住める状態ではない」と言われ、自宅を見に行くと、中には大量のがれきが入り込み、家の中はグチャグチャ。自宅敷地にあつた蔵は倒され、津波の激しさを物語っていました。とても自宅には戻れないとわかり、公民分館へ移動することにし、お母さんは通りがかった近所の方の車に送つていただきました。ご夫婦と息子さん達は、仮設が出来る5月上旬まで、公民分館での生活が続きました。

震災から約4年が経ち、公営住宅の建設や高台移転・自立再建などで、多くの人がまた吉田浜に戻ってきたことが一番嬉しいそうです。吉田浜では、震災が起ころる4ヶ月前に、地区的避難訓練が行われており、各世帯がもしまでの防災意識の高さと、住民同士の結びつきにより、吉田浜では人的被害を最小限にとどめることができます。吉田浜に戻ったのが出来たのではないかと思っています。

「災害時に日頃の付き合いが活きてくるので、普段から顔なじみになっていることが大切だ」と話される稻妻さん。

約50年間勤めた会社を退職され、現在は地区の為に尽力されています。家の前には多くの目的広場が造成されています。

地域の人たちが集い、若者たちがいきいきと活躍できる七ヶ浜町になることを夢見て、これからも吉田浜を盛り立てていただきたいと思います。



このコーナーに自分や家族の声を載せてみたい方を募集します。

募 集

七ヶ浜町社協

TEL 022・349・7781

担当／小野・長澤

● ご協力ありがとうございました。 ●

「住民の福祉意識調査」 480件ご回答

平成27年10月15日～10月30日の期間で、「住民の福祉意識調査」というアンケートを送付させていただきました。対象者は町内在住の方1000件を、無作為抽出し、郵送いたしました。その結果、480件の方々にご回答いただくことができ、改めて福祉の関心が高いことを実感いたしました。

アンケートの集計に関しては、東北学院大学教養学部地域構想学科増子研究室にご依頼申し上げております。集計・分析結果につきましては、七ヶ浜町地域福祉活動計画（第3期）や、社協だよりにてご報告させていただきます。

今回は、その中でも最終ページにございました、自由記載のページに寄せていただいた、数々のお言葉の中から、社会福祉協議会に関係の深い内容を、分野ごとに代表的なものを掲載させていただきます。



平時からの人々とのつながり・交流の大切さ。地区の集会所を活用したサロンが必要。

暦年齢を重ねるにつれて孤独感が増す。集会所などで気軽に集える場が欲しい。

高齢者が集える行事をもっと多くして、声掛けお誘いすればひきこもる方も少なくなる。

家庭で介護されている方を支えるケアが必要。お互いの交流が増え、笑顔の多い町に。



町内のボランティア活動に参加してみたいと思ったが、募集案内などが無く残念です。

以前、ボランティア募集に応募したが、それっきり連絡が来なかつた。きちんと対応してほしい。

高齢者、特に男性のサークル・ボランティア・社会活動への参加が少ない。男性が参加したいと思うような活動を真剣に検討していただきたい。どのようなボランティアを募集しているのかもわからない。



社協だよりは読んでいるが、実施報告が多く、実施前の情報が伝わらない。

7月号などで年間の行事予定などを伝えられるよう努力いたします。

社会福祉協議会の会費を年1回1000円支払っているが、何に使われているかわからない。



人件費以外の、法人運営に係る経費や、社協が行っている訪問見守り活動、移送サービスやヘルパー派遣事業などに使わせていただいてあります。毎年7月号にて決算のあらましと共に、事業を掲載させていただいているので、ご覧いただきたいと思います。

障害者等の移送サービスなど、大変喜ばれている。もっと広報活動を努力すべき。

地域の暮らしやすさは、誰かを見るのではなく、自分たちでできることは自分たちでと思っている。仲間がいればできることも増える。還暦の記念に、定年を機にボランティア登録を！！はどうでしょうか？そして活動の場を皆で作っていきたいものです。

一人暮らしの高齢者には手厚いが、二人暮らしや家族のいる高齢者にはサービスが少ない。



幸せに住みよい生活ができるいるか、調査や視察ができるといい。いづれ私も高齢者になるので他人事ではない。これからもよろしくお願ひいたします。

問題点はいろいろあるでしょうが、いつも前向きな皆さんにお礼を言いたい。人にやさしい七ヶ浜であってほしい。できることは協力していこうと思っています。

「見守り」活動に関する、調査、意識が以前より高まり、行動に移しつつあると実感しています。「見守りインフラ」をきちんと作り、安全・安心な町になるように願っております。

大学・高校生の子を持ち、今は経済的にも大変で、夫婦共に働いています。毎日忙しく働いており、近所の方と立ち話することも少なくなりました。子供が巣立ち、時間的にも経済的にも余裕ができたら、他の人の力になれるようにしたい。

◆今後の予定

- 平成28年1月～5月 第2～5回地域福祉活動計画策定委員会
- 平成28年6月 七ヶ浜町地域福祉活動計画(第3期)施行
- 平成28年7月1日 七ヶ浜町地域福祉活動計画(第3期)
お知らせ版全戸配布

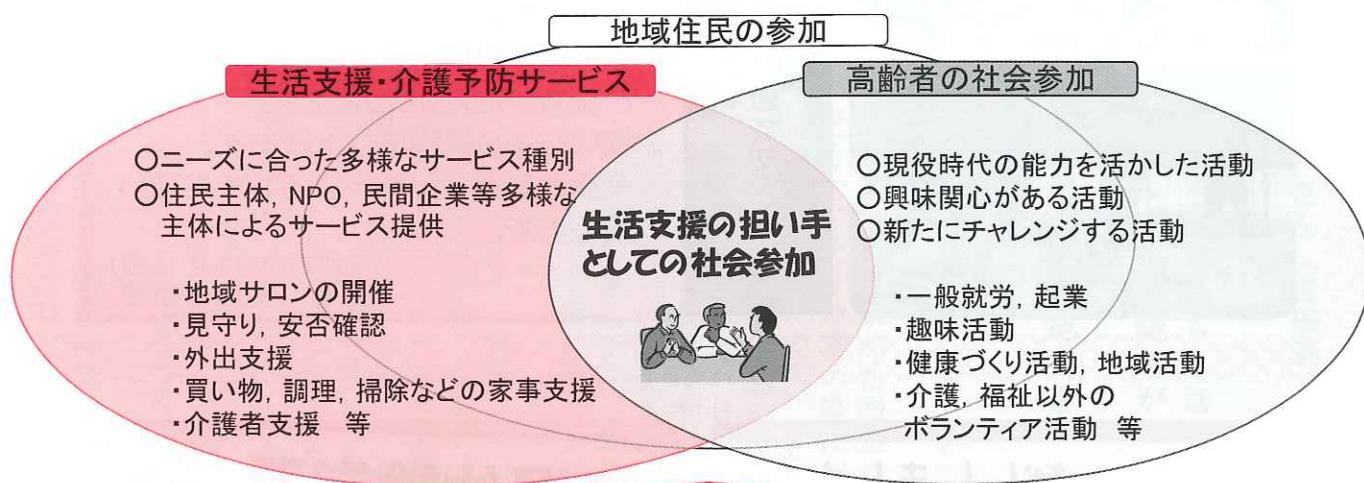
◆ アンケート調査のご回答と皆様からの貴重なご意見を、七ヶ浜町地域福祉活動計画(第3期)に反映させます。寄せられたご意見には、今後お答えしていきます。

七ヶ浜町生活支援体制整備事業がはじまりました

表紙でご紹介させていただきました、七ヶ浜町らしい住民の支え合い～介護保険の未来への一歩～として、生活支援体制整備事業がはじまり、七ヶ浜町から社会福祉協議会へ委託されました。

七ヶ浜町内でも、単身世帯や軽度の支援が必要な高齢者が増加し、生活支援の必要性が増加しております。下の図にありますように、「生活支援・介護予防サービス」では多様な主体によるサービス提供が必要とされており、逆に「高齢者の社会参加」にありますように、地域において行事に参加したり、役員として運営に協力するなど、社会的な役割をもつことこそ、介護予防につながるとも言われています。生活支援の担い手としての社会参加が求められているのです。

生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加



バックアップ

市町村を核とした支援体制の充実・強化

バックアップ

都道府県等による後方支援体制の充実

「厚生労働省資料」より

○具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター」を配置し、住民代表による協議体を設置します。

➡協議体の委員とともに七ヶ浜らしい生活支援・介護予防サービスについて話し合います。

生活支援体制整備事業協議体委員名簿（順不同）

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ○ 千葉 昭子 (通所介護事業所ZEN代表) | ○ 金子美千子 (ボランティア友の会) |
| ○ 斎藤きの子 (介護予防教室ボランティア) | ○ 新妻 禮子 (民生委員) |
| ○ 顧 治夫 (老人クラブ連合会) | ○ 鈴木 幹夫 (行政区長) |
| ○ 伊藤 喜幸 (地区サロン いきいきサロン代ヶ崎) | ○ 稲妻とし江 (ケアマネジャー) |
| ○ 鈴木 弘子 (七ヶ浜町婦人会) | ○ 山本真理子 (住民ボランティア団体「結の会」) |
| ○ 斎藤 貴子 (応急仮設住宅サポートセンタースタッフ) | ○ 館岡百合子 (しづかはまレクリエーション協会) |
| ※ 生活支援コーディネーター 鈴木 優 (七ヶ浜町社会福祉協議会) | |

祭 第18回 ふれあい広場あさひ園祭り



好天にも恵まれ大勢の方においで頂きました。

ご来場ありがとうございました。
ご協力いただいたボランティアの皆様に心より感謝申し上げます。
今後ともあさひ園をよろしくお願ひ致します。

(平成 27 年 10 月 18 日)
会場：屋内運動場

KIZUNA SHICHIGAHAMA
きずな工房

引っ越ししました!

生涯学習センター敷地内で活動してきた『きずな工房』ですが、中央公民館2階の研修室に引っ越しをしました。

また、公民館の休館日は工房もお休みとなるため、活動日は火～金曜日（祝日休み）に変更となりました。

これまで同様、おしゃべりをしながら楽しく手作り品の製作をしていますので、お



職場体験學習

「向洋中学校」

平成27年11月9日から11月13日の5日間、七ヶ浜町社会福祉協議会に向洋中学校2学年の生徒さん2名が職場体験学習に来られました。社協やあさひ園、きずな工房、見守り活動への同行訪問など、短い期間でしたが様々な事業を実際に体験していただきました。2人とも毎日真剣に取り組み、社会人としての職業観などを学んだようです。今後社会人として活躍する日が来るのを楽しみにしています。



今回ご協力い
ただいた住民の
みなさまや関係
機関の方々に心
よりお礼申し上
げます。

左から 阿部美沙樹さん
黄海 真理さん

ボランティアセンターからのお知らせ



毎年好評のこの教室は、今年度で14年目を迎えます。
(2011年は休講)

開講当初は60才以上の単身高齢者、高齢世帯の男性を対象に、健康管理や閉じこもりがちになる男性のための、交流の場作りが目的。講師は郷土料理研究家の星初枝さんを中心に七ヶ浜町ボランティア友の会が担当していました。

最近では対象を55才以上に拡げ、地域の仲間作りにも役立っています。講師はボランティアグループ「結の会」の皆さん。和気あいあいの教室にリピーターも多く、講師のアシスタントとして活躍される方もいます。これからも力を入れていきます。

興味のある方は是非ご連絡ください。



↑ 平成14年の教室、懐かしいお顔が
すらほら…魚のさばき方を練習しました



料理教室のお知らせ



- 平成28年1月20日(水) (講師: 結の会)
- 平成28年2月16日(火) (講師: イケメンシェフの皆さん)
- ◆ 場所 中央公民館 調理室
- ◆ 時間 9時30分～13時頃 ◆ 参加費 500円
(人数に制限がありますお早目にご連絡下さい)

まだ間に合う!

連絡先 022-349-7781 担当 竹中

町民農園「ほのぼの農園」に 「ボランティアの樹」の看板が設置されました!

2013年10月「農地復興感謝祭」(町主催、会場ほのぼの農園)において、100本のピンクアナベル(紫陽花)が贈呈され、紫陽花の季節にはきれいな花を咲かせています。

2015年10月、「ボランティアの樹」というボランティア活動への想いが記された看板が設置されました。七ヶ浜町のボランティア活動の象徴とも言える、波乗りウサギTシャツや灯台グッズの売り上げの一部が、若木屋さん(東京都Tシャツ等販売支援)を通じて100本のピンクアナベル(紫陽花)と、この度の看板となって町に贈呈されました。

看板は、白鳥の飛来地として知られる阿川沼近くの「ほのぼの農園」の玄関口にあります。皆さまも是非見に来てください!!



●ボランティアさんの手によって設置された看板

- ◆前回は、地区の方々と見守りについて話し合っている様子をお伝えしました。今回から二回に分けて、見守りについて掲載します。一回目は、「見守りってどんなんこと?」についてです。

～見守りってどんなんこと？～

地域で安心して暮らすため、孤立を防ぐために、隣近所同士でお互い気にかけあう気持ちが求められます。見守りの対象となるのは、高齢者や障がいを持つ人、病弱な人、引きこもりがちな人、生活困窮者、子育て世帯など、年齢に関わらずさまざまです。



「いつもと何か違うな」「なんだかひっかかるな」 異変を感じたときは！！

その方の家族や知り合い、行政区の区長や民生委員へ連絡しましょう。
どこへ連絡したら良いかわからない場合は、

- ◆七ヶ浜町社会福祉協議会 (349-7781)
- ◆役場・地域福祉課 (357-7449)
- ◆役場・地域包括支援センター (357-7447)

などの専門機関へつなぎましょう。

見守りとは…

- ★隣近所に、関心を持つこと
- ★気になる人に、世話を焼くこと
- ★気付きを、他者へつなぐこと

※見守りは決して「監視」ではありません。

さりげなく気にかける、その意識も見守りです。

プライバシーに配慮しながら、その人に合わせた見守りをしましょう。



次回は、専門職（保健師、ケアマネージャー、ヘルパー等）が関わる見守りについて掲載する予定です。